

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 日刊 動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合  
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番  
99.4.1 No. 4942

## 第二波スト、97名で貫徹

### 中江・水野選挙に総決起しよう



(30.30次ニ波スト、千葉機関区)

千葉機関区に二七〇名結集

99春闘第二波ストライキ闘争は、3月30日東日本・貨物の検査労働者を中心に97名が11時以降順次ストに突入し、14時から千葉機関区においてスト総決起集会を全支部から二七〇名の結集でかちとつた。

千葉機関区で行なわれた総決起集会では、はじめに中野委員長が次のとおり挨拶を行なった。「貨物会社の『百円玉一個回答』に再回答を求めて闘っている。99春闘は大きなヤマ場を越えたが、資本の攻撃に労働組合が有効な反撃を組織できないでいる。今日総務庁が二月の失業率を四

・六%、完全失業者数が三〇〇万人を越えていると発表した。賃金切り下げやリストラという首切りがこの数字に示されている。『雇用か賃上げか』のペテンがここに表れている。日貨労は早い段階からゼロ回答を容認していた。会社にたいして労働者が大同団結していくことが必要だ。労働者の分裂状況の中で延命のみに終始しては労働者の力は発揮できない。動力千葉、動力総連合の組織拡大こそこの状況を突破できる。JRや貨物会社の現状を変えるときは近い。ガイドラインなど日本全体で反動が進んでいる。労働組合が大きく台頭する時が来ている。第二波闘争を契機に、百円玉回答打破、運転保安確立、塩漬け打破の勝負どころは近い。第一波・第二波ストをその発進地としていこう。」

つづいて田中書記長が基調報告を行った。

「貨物の百円回答は、日貨労が本気で抵抗すればこんな回答にはならなかった、その意味で日貨労の責任は重い。がまんすれば展望がでてくるとでもいうのか。むしろ分割・民営化の失敗・破綻にこそ、われわれのついているスキが出てくる。貨物で働く労働者の団結のなかにこそ展望がでてくる。貨物のなかにこそ国鉄労働運動の再生の道がある。その出発点に春闘ストがあ

る。東日本では、組合差別が続き、安全をおびやかすところまで結託体制が進んでいる。JR体制の矛盾に反撃にたてば一〇四七名や強制配転者の塩漬けに勝利することができると。闘う部

## 九九春闘の意義

隊が厳然とし、呼び掛ければ新しい闘いが始まる。その中心に国鉄労働運動が立とう。つづいてスト突入8支部をはじめ全支部から決意表明をうけ、最後に中野委員長の団結ガンパローで集会は終了した。

今99春闘は、大幅賃上げ獲得を初めとした基本的要求のうえに一〇四七名の解雇撤回、強制配転者の現職復帰、塩漬け打破、士職登用差別粉砕、運転保安確立、60才まで働くことのできる労働条件の確立などを課題として3月23日に第一波で88名、30日に第二波で97名が検修・営業を中心にストライキで闘った。

今春闘をめぐる状況は、連合傘下の大手組合が大失業攻撃のなかでほとんど有効な闘いが組織できないなか、かつてない超低額回答に終始した。またJRにおいても貨物会社が早くからベアゼロを宣言して春闘に臨むなど労働者の大同団結なしには突破できない困難な状況に直面した。日貨労委員長緒方はベアゼロを容認する発言を行い、国労中央は春闘そつちのけで改革法承認のための臨大を春闘真つ只中に開催するという労働組合の側の危機も存在していた。

こうした状況で動力千葉が二波のストを立てて春闘を闘ったことは、労働組合、労働運動の本来あるべき姿を指し示したという意味で重要な闘いであった。貨物問題や安全問題に端的に示

されるようにJR結託体制、分割・民営化体制の破綻にたいして労働組合の側からの反撃の闘いとして今春闘は闘われた。一〇四七名解雇撤回、運転保安をかかげ、強制配転された仲間が自ら怒りのストに立ち、検修・構内外注化攻撃と闘う検修の仲間が全力でストに立ち上がり、貨物職場に総決起して超低額回答を貨物の仲間とともに闘いぬくことで、国鉄労働運動の再生の闘いが大きく広がろうとしている。勝負どころでの乾坤一擲の闘いにむけて、組織と団結の強化が今春闘をとおしてかちとられた。

同時に安保・新ガイドライン情勢下で、労働組合・労働運動の真価が問われるなかで、戦争・反動と闘う労働組合の運動を拡大する上でも意義のある闘いであった。すでに自衛隊は実践に踏み切った。いまこそ戦争と反動と対決する労働運動のうねりをつくりだそう。

今春闘の二波のストライキは、大きな意義のある闘いであった。この勝利を引継ぎ、一カ月を切った中江・水野選挙闘争に総決起しよう。

新世代の動力千葉を創りあげよう！